

第1章 水環境の現状

1.1 流域の概要

1.1.1 流域の地形

- ・ 斐伊川は幹川流路延長 153km、流域面積 2,070km² の一級河川である。
- ・ 宍道湖の集水面積は 1,320km² であり、流域面積 920km² の斐伊川が流入するほかは、流路延長 10km 前後の小規模河川が直接流入する。
- ・ 中海の集水面積は 750km² であり、飯梨川・伯太川などの比較的大きな河川が流入する。

1.1.2 中海・宍道湖の地形

- ・ 宍道湖は平面形状がほぼ楕円形であり、平均水深は約 4.5m、湖心付近の最大水深は約 6.0m と浅く、湖底の起伏は小さい。
- ・ 中海は南東方向に細長く伸びる米子湾と、西北部には中海干拓事業の締切堤で囲まれた本庄水域を有する。
- ・ 中海の中浦水門から米子湾にかけての東部水域は、過去の干拓事業や埋立事業による掘削のため湖底地形の起伏が激しく、水深 10~16m の人工地形が連続している。
- ・ 宍道湖と中海は大橋川(延長約 7.5km, 平均幅約 140m)で繋がる連結系汽水湖である。
- ・ 中海と日本海は境水道(延長約 8.7km, 平均幅約 420m)により繋がっている。

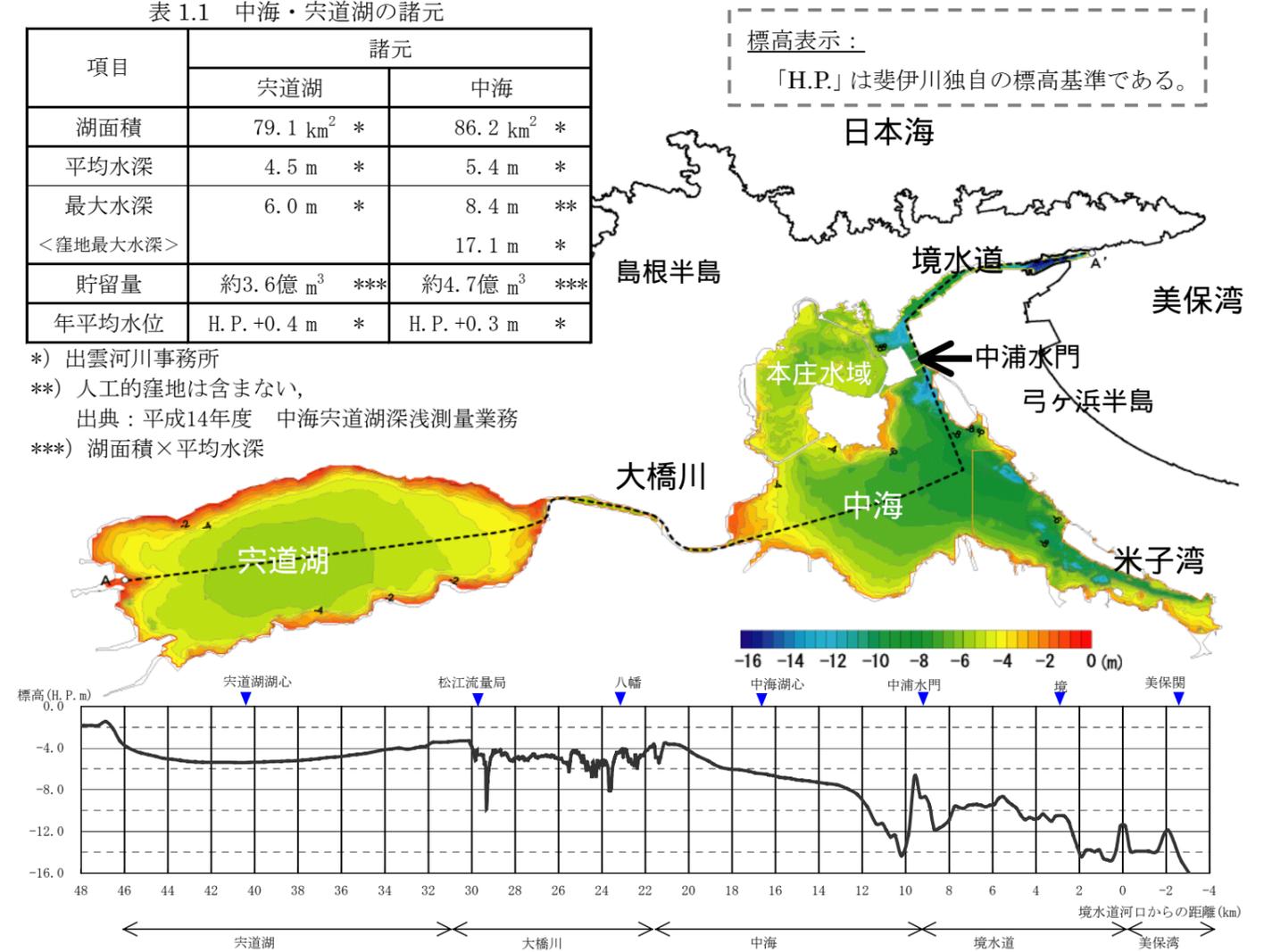


図 1.1 斐伊川流域図

表 1.1 中海・宍道湖の諸元

項目	諸元	
	宍道湖	中海
湖面積	79.1 km ² *	86.2 km ² *
平均水深	4.5 m *	5.4 m *
最大水深	6.0 m *	8.4 m **
<窪地最大水深>		17.1 m *
貯留量	約3.6億 m ³ ***	約4.7億 m ³ ***
年平均水位	H.P. +0.4 m *	H.P. +0.3 m *

*) 出雲河川事務所
 **) 人工的窪地は含まない,
 出典: 平成14年度 中海宍道湖深浅測量業務
 ***) 湖面積×平均水深



※出典: 平成 14 年度 中海宍道湖深浅測量業務

図 1.2 中海・宍道湖の地形

1.1.3 大橋川の地形

- ・大橋川の延長は約 7.5km、最深河床高は概ね H.P. -5m 前後であり、河床勾配はほとんどなくレベルである。
- ・大橋川の平均川幅は約 140m であり、上流部の新大橋付近で約 120m と最も狭い。
- ・大橋川上下流端の大橋川呑口部および大橋川河口部は全体的に浅く、そのなかの浚渫航路部が滞筋となっている。大橋川呑口部および大橋川河口部には部分的に周辺の平均河床高より地盤の高いマウンド部が存在する。
- ・中流部は中州を挟み剣先川を分流して、再び合流している。剣先川の河床高は HP-2m ~ -1m と浅い。

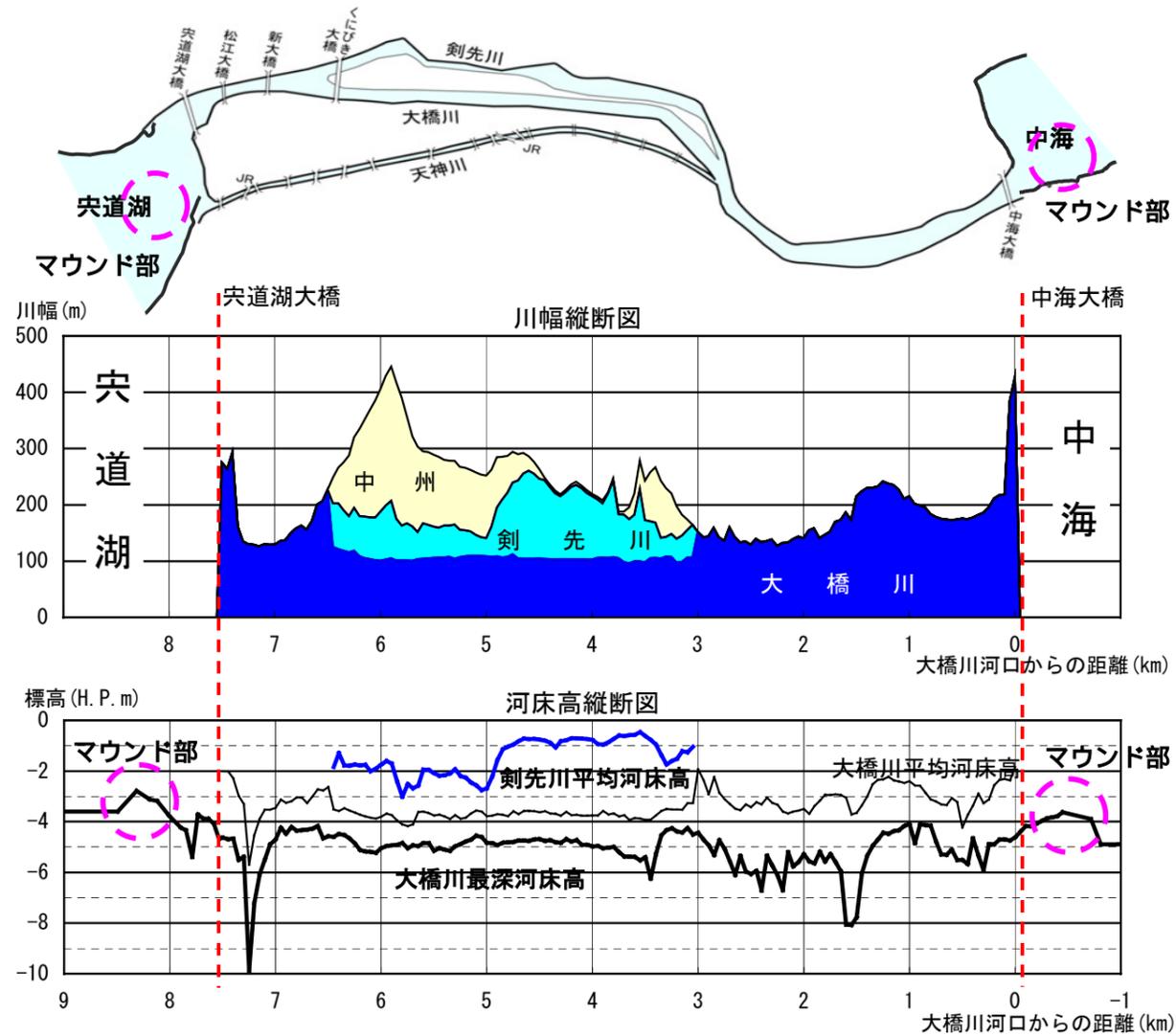


図 1.3 大橋川の河幅・河床高縦断面図

1.2 気象

1.2.1 調査実施状況

- ・斐伊川流域内の雨量観測所(気象庁所管の観測所は降水量)は 31 地点である。
- ・その他の気象(気温、湿度、気圧、風向・風速、雲量、日射量、日照時間)は、10 地点(湖上 3 地点)において観測している。

国交省による気象観測は、湖上 3 地点(宍道湖湖心、中海湖心、米子湾)と湖沿岸 1 地点(平田)で実施している。宍道湖湖心と中海湖心では、気温、湿度、気圧、風向・風速、日射量を観測している。米子湾と平田では、風向・風速を観測している。

また、気象庁所管の観測所には、地上気象観測所とアメダスがある。

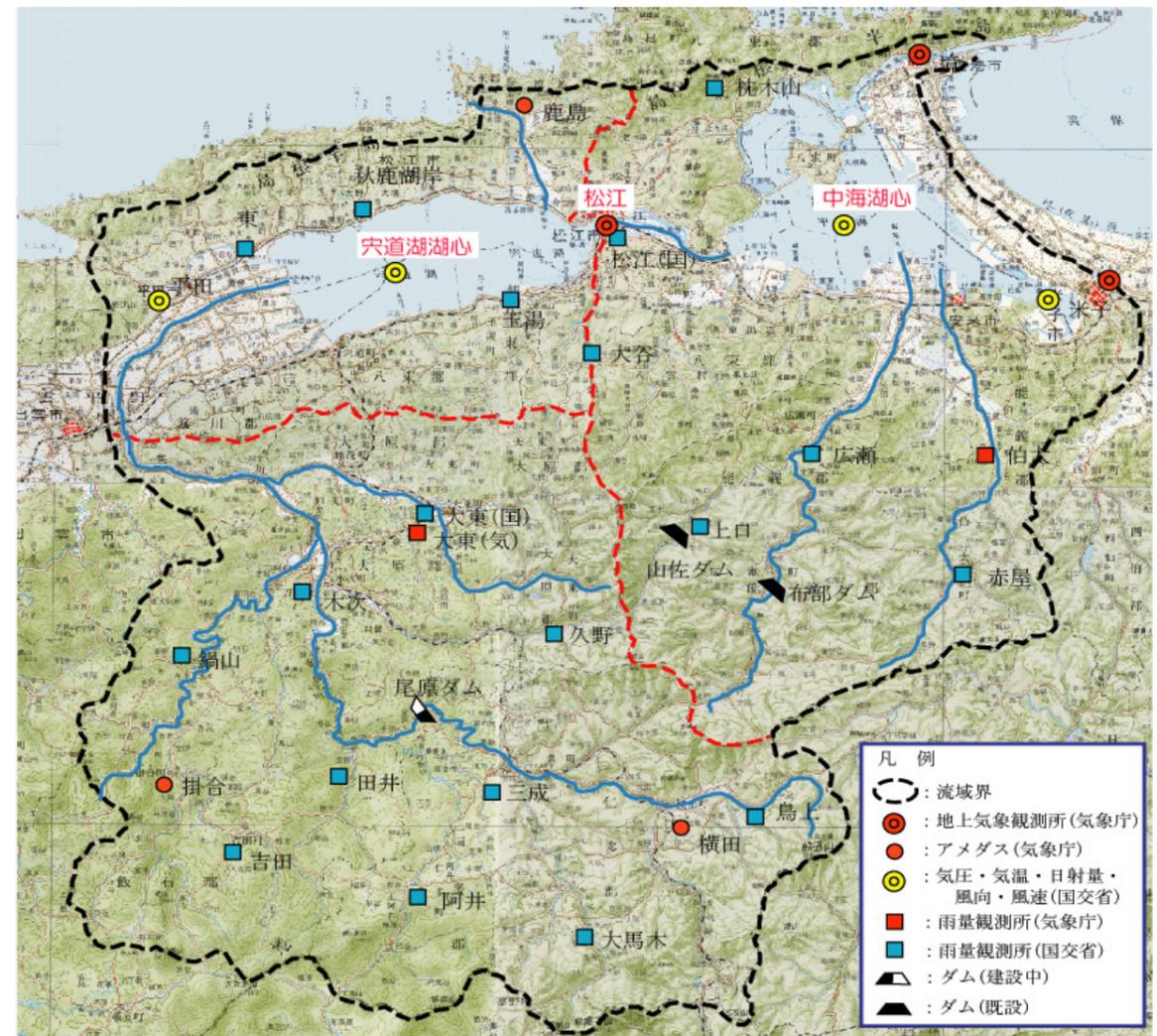


図 1.4 気象観測実施状況